泉の学び舎
世田谷区立中里小学校

令和５年度

# 学校関係者評価委員会
# 報　告　書

令和６年２月１０日

世田谷区立中里小学校
学校関係者評価委員会

## はじめに

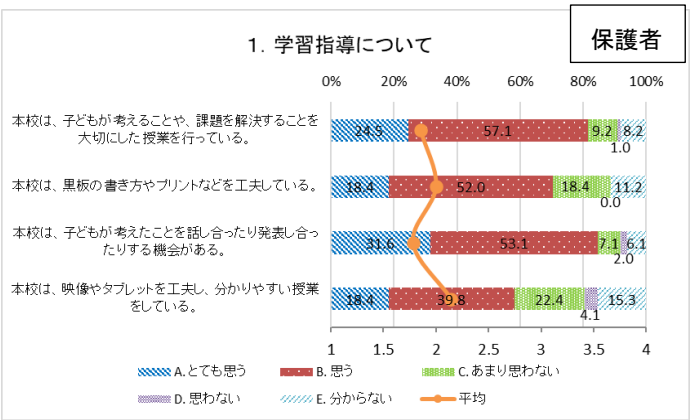
令和５年１２月に実施した標記の結果について、学校関係者評価委員会として、考察を行った。そこから指摘しうる、本校の課題や改善点、およびその解決策、改善方法について提案をさせていただいている。そこには、「本年度中に修正できるもの」と「次年度以降の教育活動に生かすもの」とがあるが、時間的な見通しをつけながら、さらなる学校教育活動の充実を期待するものである。

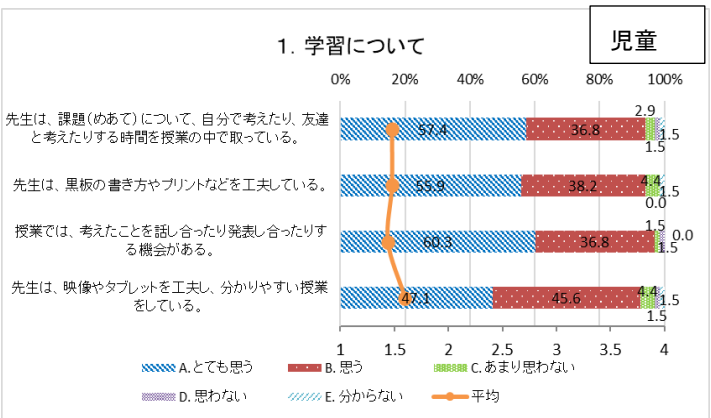
学校評価の結果及び評価委員会としての考察について、以下の通り報告をする。

資料分析にあたって

注１　Ａ：十分達成されている　Ｂ：おおむね達成されている　＊「A+B」を「肯定的回答」と呼ぶ。
　　Ｃ：どちらかというと達成されていない　Ｄ：ほとんど達成されていない。
　　＊数値は小数点以下を四捨五入する。また、数値の（　）内は昨年度との対比とする。
注２　１～６の項目については、「児童アンケート」（５・６年生のみ）を実施している。

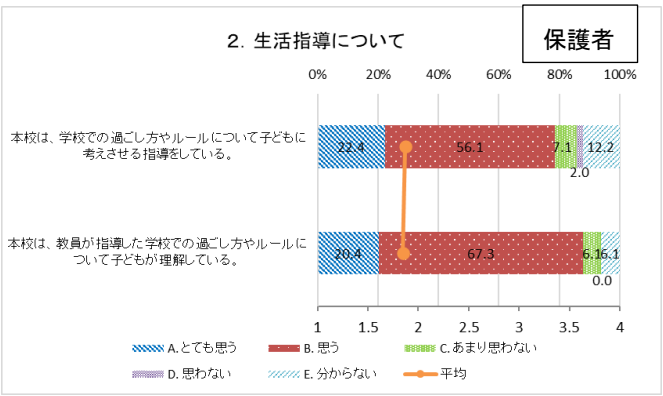
## １．学習指導に関すること

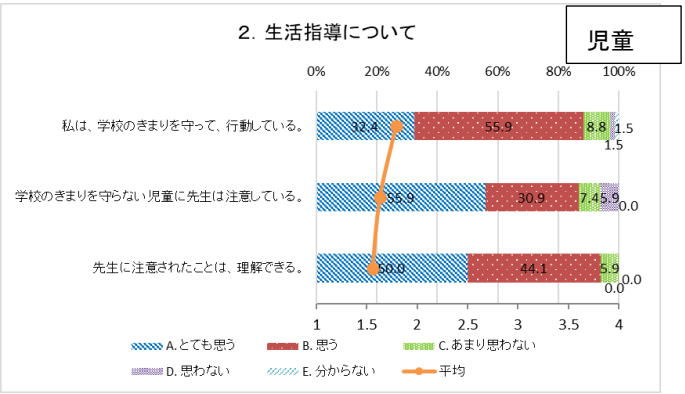



本項目に対する肯定的回答は、保護者が73.7%、児童が94.5%であった。
児童の方は、総じて学習指導に意欲的に取り組んでいる実態が、把握できる。
一方で、保護者評価における肯定的回答の数値は、児童のそれよりも、－20.8ポイント下回っている。保護者の方々の学習指導に関する要望により応えた、授業実践としていくためには、さらに的確な児童理解に基づいた、発問・指示の工夫、また教材教具の選定・提示方法等の検討が求められる。
上記の保護者数値は全学年をとりまとめたものとなっているが、学年・学級別にみてみると、最大で40%の差がみられる設問もあった。児童の思考や学習意欲にしっかり寄り添った授業実践を、全校レベルで共通実践していくことを期待したい。

## 2　生活指導に関すること



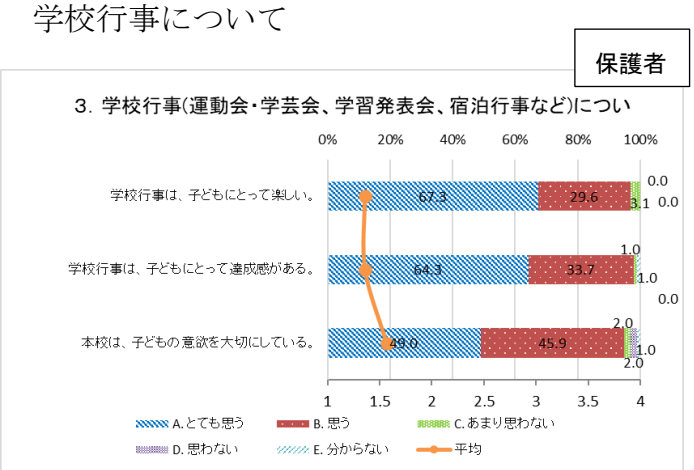



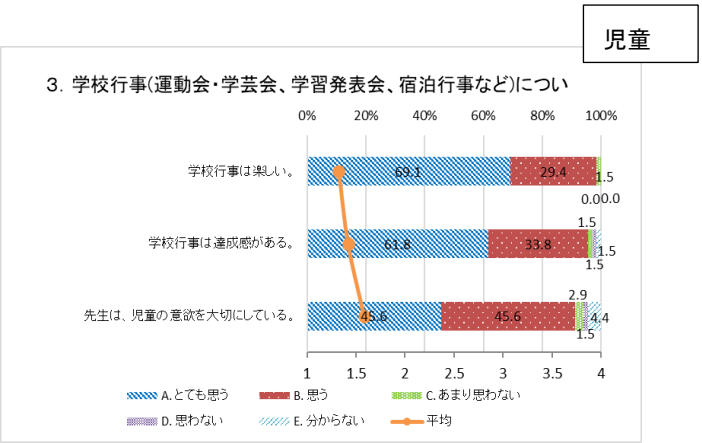

本項目に対する肯定的回答は、保護者が83.2%、児童が89.7%であった。前年比でもそれぞれ15%ほどの伸びがみられる。ただ、保護者アンケート第１設問「学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」では、78.6%と、8割を切る数値となっている。

本校は、学校経営の中核に「中里 WAY（子どもたちに寄り添い、一人一人を大切にする教育活動）」を掲げている。生活指導に関するきまりやルールについても、十分に児童に理解させることをより重視していただきたい。与えるルールではなく、共に考えその必要性にみんなが納得した上でルール・きまりの運用を進めていく、そのような実践を期待したい。

また前項目同様、学年・学級間の数値の差がみられる。児童が理解し、納得していることを確認しながら、指導を進めていくことを、学習指導でも生活指導でも全校共通実践で進めていくことを期待する。

## 3　学校行事について



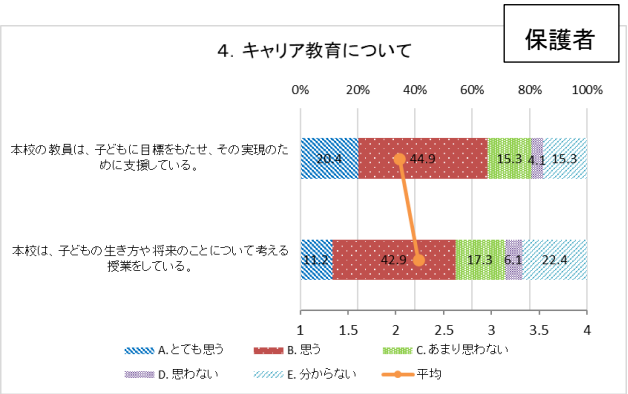



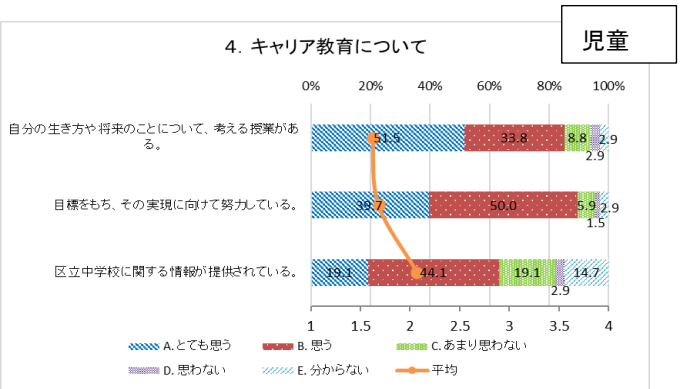

本項目に対する肯定的回答は、保護者が96.6%、児童が96.1%であった。

双方ともに、肯定的評価が9割5分を超え、本校の学校行事の教育的効果が広く認められる。実際の各行事の自由記述によるアンケートにも、「子どもの成長がみられた。」「みんなが一生懸命やっている姿に感動した。」といった肯定的な文言が多く、児童・保護者・地域の期待に応えた行事運営となっている。

今後も、各行事活動を充実させ、そのことが本校の特色の一つとなり続けていくよう期待するものである。

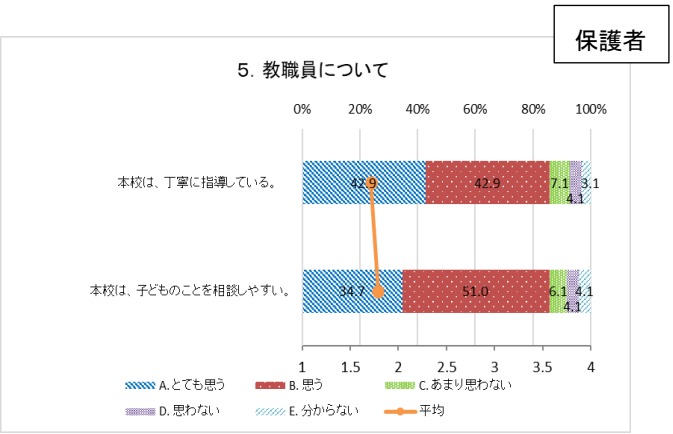
## 4 キャリア教育について

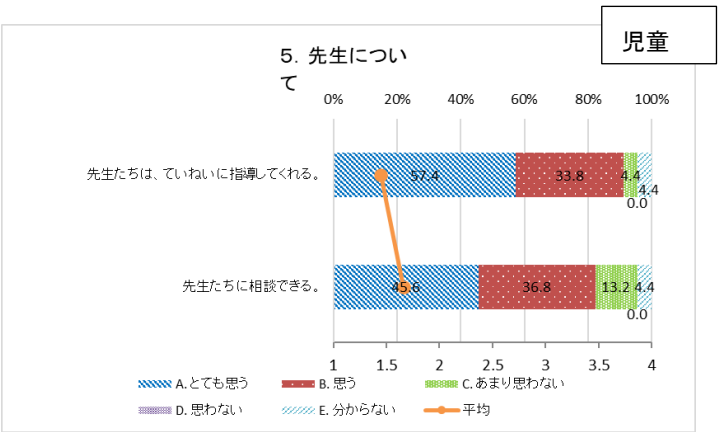



本項目に対する肯定的回答は、保護者が　59.7%、児童が79.4%であった。
キャリア教育については、本校の特色ある学校の一つである「ファミリーグループ」活動が、その主な実践の場となっているが、活動の内容やねらい、またキャリア教育との関連についての説明を、より明確に周知していくことを期待する。
また、児童に対しても、発達段階に合わせながら、キャリア教育としてのめあてをはっきりと伝えていく必要がある。教室掲示など、可視化した手立ても有効と考える。次年度の教育計画にも、各教科・領域の指導内容と、キャリア教育との関連を明記しておくとよい。

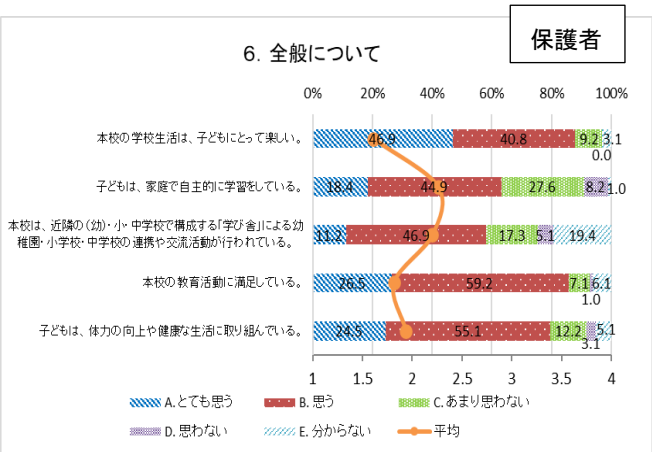
## 5　教職員について

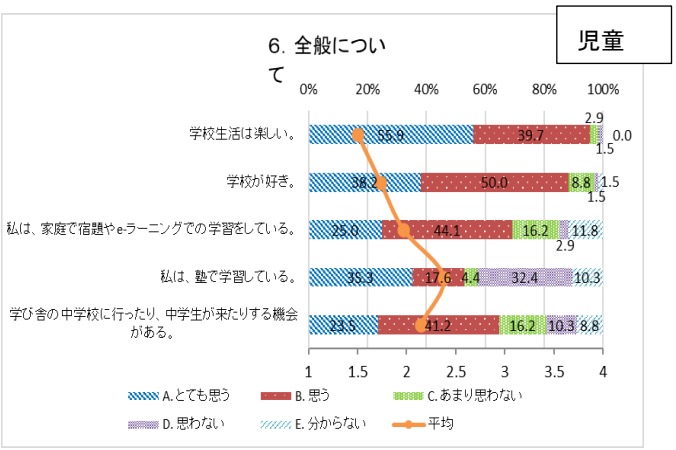



本項目に対する肯定的回答は、保護者が85.7%、児童が86.3%であった。「２生活指導について」の項目でも触れたように、本校では「中里WAY（子どもたちに寄り添い、一人一人を大切にする教育活動）」を教育活動の基軸としている。その視点から考えると、保護者・児童ともに、肯定的評価85%を上回っていることは評価できる。
日頃の学校の様子をみても、担任の先生だけでなく、様々な方が連携しながら子どもたちかかわり合って、手厚く児童を支援している様子が伝わってきている。
引き続き、一人一人を大切にして、子どもたちを育ててもらいたい。

## 6　全般について

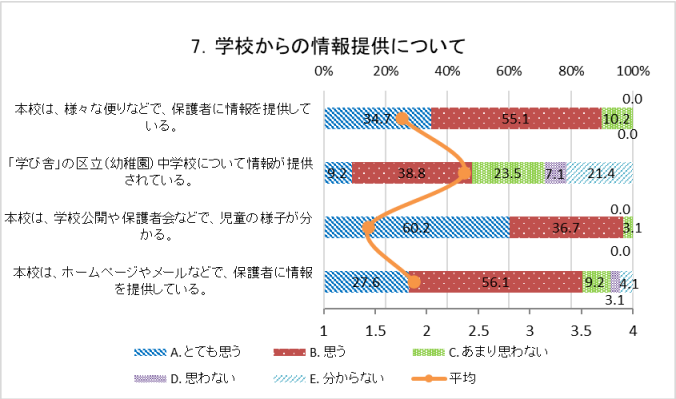


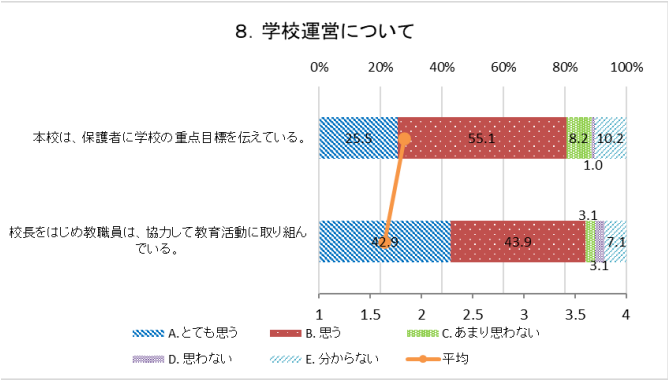

本項目に対する肯定的回答は、保護者が74.9%、児童が74.1%であった。
特に最初の設問「学校は楽しい」に対する回答が、高い数値になっていることは評価できる。
ただ、学習面では、保護者アンケートの数値で、家庭学習の取組63.3%、学び舎での取組の設問58.1%となっており、項目全体の数値の比較からすると落ち込みがみられる。家庭学習については、日頃の取組の積み重ねで大きな力の差がでるため、家庭と学校とで、より協力して児童の家庭学習環境を整えてもらいたい。また、「学び舎」についての情報提供も積極的に進めていくとよい。

【以下の項目は、保護者アンケートのみの実施となります。】

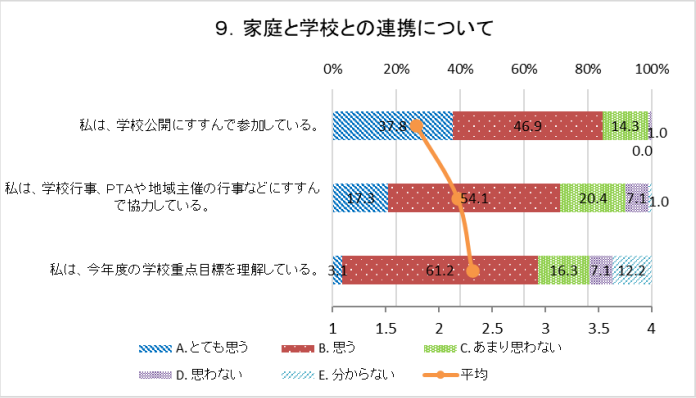
## 7　学校からの情報提供について



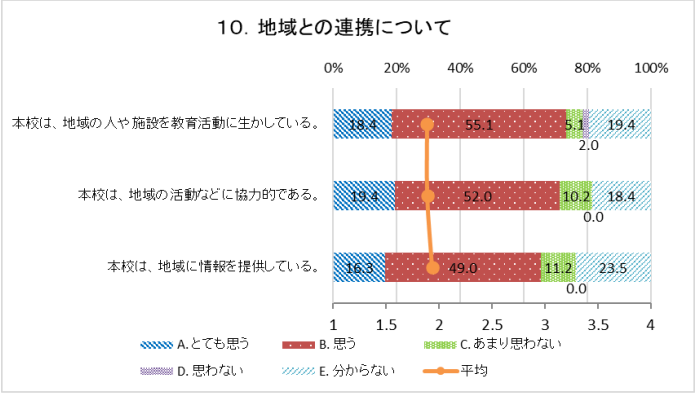

本項目に対する肯定的回答は、保護者が79.6%であるが、「学び舎についての情報提供」の設問については、48.8%にとどまっている。
前項目６でも触れた通り、「学び舎」での取組を、広く紹介する取組が望まれる。



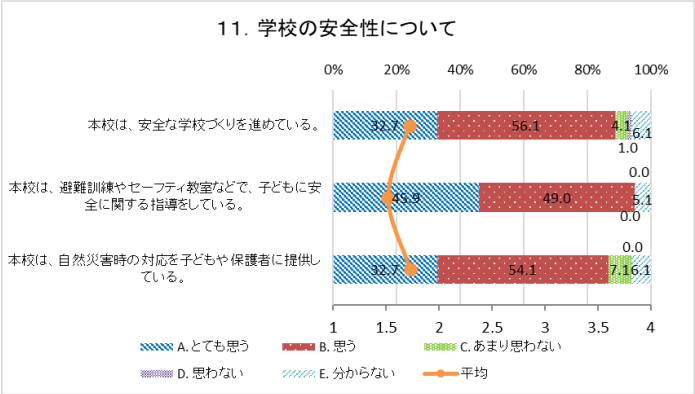

本項目に対する肯定的回答は、保護者が83.7%である。教職員の熱心な取組は、広く保護者・地域の方に伝わっている数値といえる。今回のアンケートで明らかになった課題を踏まえ、より信頼を高めていくことを期待する。



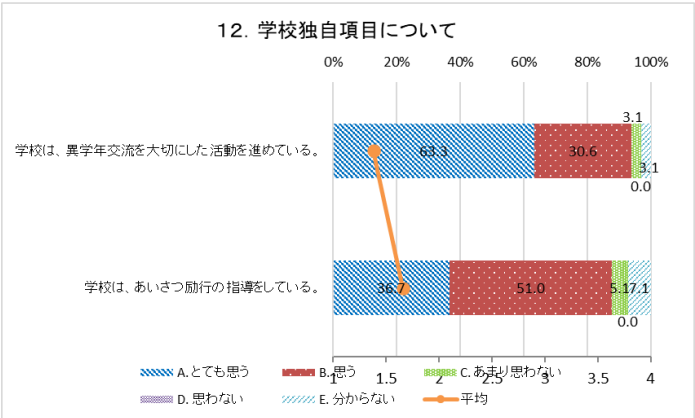

本項目に対する肯定的回答は、保護者が73.5%である。行事や、学校公開による情報提供については、評価が高いが、教育活動の重点目標に対する取組について、今後さらなる周知が望まれる。




本項目に対する肯定的回答は、保護者が70.1%である。本校の教育活動には、ゲストティーチャーによる体験的な学習が数多く計画されている。そうした活動をより広く周知していくことで、より地域・保護者への理解が深まっていくであろう。教職員の地域行事への参加は、「働き方改革」の流れもあり、難しくなりつつあることも周知してよいと思われる。




本項目に対する肯定的回答は、保護者が90.1%である。月に一度避難訓練を実施し、また、９月には「中里防災の日」として、地域・行政と連携した訓練を行っていることは評価できる。




本項目に対する肯定的回答は、保護者が90.8%である。ファミリーグループなどペア学年による共同の学びについて、高い評価となっている。

あいさつ運動など、あいさつ励行の取組も引き続きお願いしたい。

令和５年度世田谷区立中里小学校学校関係者評価委員会（委員長　藤木　隆弘）は、関係者アンケート、教職員による自己評価の評価・分析、並びに教育活動、学校運営など教育課程全般についての観察評価を行い、以上のように令和５年度世田谷区立中里小学校学校関係者評価委員会報告書をとりまとめました。

本委員会は、世田谷区立中里小学校長に対し、本報告書の趣旨を踏まえ、中里小学校学校経営の基本方針にある「中里 WAY（児童に寄り添い、一人一人を大切にする教育活動）」により、子どもたちが生き生きと育ち、児童、保護者、地域の皆様から信頼され、親しみをもたれる学校づくりをより一層推進していただくよう求めます。また、「ユネスコスクール」としての SDG を推進した教育活動、グローバル教育等の推進にもご期待を申し上げます。学校関係者評価委員会としても、中里小学校の教育活動を全面的に支援し、ともに歴史と伝統を育んでいくようご協力申し上げる次第です。

在籍している児童数も年々増加しており、個別の支援や対応の必要性も高まっています。先生方が誠意をもって対応している姿に敬意を表する次第ですが、すべてを学校だけにお任せするのではなく、広く保護者や地域、関係機関の皆様のご理解・ご協力も、引き続き賜ることができればと願っております。

令和５年度の、校長先生を初め教職員の皆様による、中里小学校の教育活動に、心より感謝申し上げます。

令和６年３月９日

令和５年度　世田谷区立中里小学校学校関係者評価委員会

委員長　藤木　隆弘

委員　伊藤　麻依

委員　上村　恵子

委員　福田　健一

委員　髙橋　美奈

委員　芦沢　潤

委員　髙橋　亜紀子